

横浜市立大学データサイエンス人材育成プログラム自己点検

高等教育推進センター長

中條 祐介

本プログラムは、本学データサイエンス学部学生を対象とし、データサイエンス学部が育成する数理・データサイエンス・AIの応用基礎力を「DS x DEI(Diversity, Equity and Inclusion)による価値創造」と捉え、DSがSocial Goodを牽引し、多様な領域において価値創造するためにDS人材が持つべき視座・技能を養成することを目的としている。

【令和4年度】

●教育プログラムの履修・修得状況

本プログラムの履修状況は、収容定員（240名）に対して28.3%（68名）であった。しかし、修了者数は7名と少なかった。

修了者数について、点検と検討を行った。その結果、修了者数が少なかった原因の一つとして、応用基礎プラスに相応しい高度なデータサイエンス人材育成プログラム構築を企図して、本プログラムの必修科目に発展的専門科目を課した影響があることが明らかになった。本プログラムの対象であるデータサイエンス学部では、「数理・データサイエンス・AI教育プログラム応用基礎レベル」の内容・要素を十分に満たす科目が複数あるが、本プログラムでは、データサイエンス学部における共通基盤科目ではなく、より意欲的なプログラム履修を狙い、発展的専門科目をプログラム必修科目に設定した。しかし、このようなプログラム提供側の狙いと学生の履修計画とのギャップが生じていることが分かった。データサイエンス学部での学びにおいて、学生は機械学習やAIに関する基本的な知識を一律に有するが、多様なドメインへのデータサイエンスの展開を学生に推奨していることもあり、発展的専門科目の選択は多岐に渡る。

修了者数向上のため、令和5年度入学生より、本プログラムの必修・選択科目の配置を見直したプログラムを適用する。併せて、本プログラムの多くの科目が学部必修科目であることを鑑み、引き続きオリエンテーション等を通じ、履修の動機付けとプログラムの周知徹底を行う。

●学修成果

各科目における課題や最終試験を通じて、学修成果を確認した。また、各科目の授業評価アンケートにより、学生の理解度と学修成果を把握した。集計・分析結果は、各学部およびFD・SD推進委員会で分析結果を共有し、各科目の改善に活用した。

●学生アンケートを通じた学生の内容の理解度

授業評価アンケートから算出した科目群別評定平均のうち、データサイエンス学部系講義の評価は、学修到達目標の達成「4.20/5」、満足度「4.43/5」といずれも学生評価は4以上と概ね高評価を得たと確認した。

●学外からの視点

3年次に企業等でPBL実習を行う「専門領域演習II」の評価は、教員のみならず、企業の視点での評価も加味されている。令和4年度の演習では、PBL実習の評価を含めて85.2%の学生が5段階の最高評価を取得した。

【令和3年度】

●教育プログラムの履修・修得状況

本プログラムの前段階である数理・AI・データサイエンスリテラシーレベルプログラムの履修状況は、全学年で12%であった。本プログラムの多くの科目が学部必修科目であることを鑑み、次年度は説明会等を通じ、履修の動機付けとプログラムの周知徹底を行う。

●学修成果

各科目における課題や最終試験を通じて、学修成果を確認した。また、各科目の授業評価アンケートにより、学生の理解度と学修成果を把握した。集計・分析結果は、各学部およびFD・SD推進委員会で分析結果を共有し、各科目の改善に活用した。

●学生アンケートを通じた学生の内容の理解度

授業評価アンケートから算出した科目群別評定平均のうち、データサイエンス学部系講義の評価は、学修到達目標の達成「4.20/5」、満足度「4.46/5」といずれも学生評価は4以上と概ね高評価を得たと確認した。